

自己評価表 (令和2年度)

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点努力目標	1 主体的に学び、個性を磨き、自己実現に努力する態度を育成する。 2 挨拶等の礼儀や身だしなみを整え、基本的な生活習慣を育成する。 3 学校行事や部活動、奉仕活動の活性化により、心身を鍛磨し、社会性を育成する。
------	-------------------------------	--------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方針(意見)
① 組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	C	教職員間の共通理解は概ね図られている。ただし、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、諸行事やレクリエーションが中止縮小されたため、日常的なコミュニケーションが不足した側面がある。	新型コロナウイルス感染症の影響から臨時休業や各種行事が削減・縮小されたことは、生徒の教育活動においても大きな影響を与えたが、教職員のコミュニケーションや相互理解という点でも影響が大きかった。教職員の相互理解の場の確保等、工夫していきたい。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実施する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	C	運営委員会や職員会議の終了時間が勤務時間を超えてしまうことがあった。グループウェアや校務支援システムは積極的に利用されており、省力化が図られた。	運営委員会や職員会議では、議案の精選や事前協議により、今後、時間短縮を図る。グループウェア等をさらに活用することで、効率的な審議や連絡を進めていく。
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	職員会議やグループウェアを活用して、安全意識の啓発を行ったため、危機管理意識は向上した。新型コロナウイルス感染症に係る対応も全教職員をあげて行うことができた。	校長面接や定期的なアンケートは、教職員の声を聞く上で、有効な手段であるが、日常的な会話を意識的に増やしたり、各準備室に直接足を運んだりすることで、コミュニケーションの強化を図りたい。
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比50%減を目指す。 A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:20%以上 E:それ以外	B	教職員の心身の健康については、校長面接や日頃のアンケート、日常会話等を通じて、問題点を把握し解決するよう努めた。 働き方改革については、業務量の多寡を調整したものの、新型コロナウイルス感染症対策などで、うまくいかなかった側面もある。超過勤務時間の多い教職員(超過勤務が月80時間以上)は、対前年比で、約49%減少した。	「ノー残業デー」を設けたり、超過勤務の多い教職員に簡単な面接をしたり、働き方改革に取り組んでいる。今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業や部活動の短縮等で数値的には大きく改善している。少なくともこのラインを維持できるように、啓発と校内体制の改善に努めたい。
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。 A:10ポイント以上 B:8ポイント以上 C:6ポイント以上 D:4ポイント以上 E:それ以外	—	「できること」を考え、全校をあげて実践したが、新型コロナウイルス感染症の影響で諸行事が中止や短縮になるなど、生徒にとっては残念であった。学校ホームページをより充実させることで、情報発信にも努めた。学校評価アンケートでの評価は、対前年比で-2%。	生徒にとって、日々の授業は大切であるが、本校の特色である多種多様な学校行事や部活動、それに関連した各種大会が中止・縮小されたことは残念である。来年度は、今年度の反省を生かし、「どうすればできるか」「どこまでできるか」を、より吟味して、生徒の学校生活に影響が出ないように配慮したい。
② 教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を新設し、月1回以上実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	B	八つある各系列の特色を生かした教育課程を編成している。各系列における教育の充実や2年次生と3年次生の交流を図ったり、特色を出したりするために系列集会を新設した。	系列を中心とした学習の推進は、総合学科としての大きな特色であり、系列集会の導入に至った。今年度は、実施内容や取組について、系列間の温度差が見られたため、趣旨や実施内容を練り、充実させることでより良いものにしていきたい。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	学び方の指導も含めて、細やかな学習指導ができた。生徒の学習する様子や成果を認めることで、学ぶ意欲の向上を図ることができた。	生徒の学習支援や資格取得、進路実現について、きめ細かい指導ができた。国公立大学への進学者を増やすなど、生徒の可能性を広げるような学習指導・進路指導を充実させていく。
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	各教科科目で課題テストや小テストを実施するなど、生徒の学習意欲の向上に資することができた。Google suite for Educationを全校で導入したことにより、個別対応も可能になった。	「生徒一人一台端末」の導入に向けて、校内研修を充実させた。教職員間に多少の温度差はあるものの、進捗状況は概ね良好である。先行している若手教員を講師とした簡易な講習会を充実させることでGIGAスクール構想の実現を目指したい。
		生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	生徒の発達段階や学習の到達状況に応じた丁寧な個別指導ができた。特に、3年次生に対しては、就職指導、進学指導ともに充実した指導ができた。授業評価アンケートでの評価は、98.3%	進路指導は、大学入学共通テストへの対応を含めて、充実した個別指導を行うことができた。その反面、一部の教員に負担過多となる場面もあり、組織としての進路指導の在り方を構築したい。
授業の充実	基礎的基本的な知識・技能が定着するよう、分かりやすく興味が持て、集中して取り組める授業を工夫する。ICT機器の活用や相互授業参観を年に8回実施することにより授業改善を行う。 A:8回以上 B:7回 C:6回 D:5回 E:それ以外	B	Google suite for Educationなど、ICTを活用した授業や課題のやり取りが浸透しつつある。各教科で、生徒の興味関心を喚起し、分かる授業の実践に努めた。相互授業参観実施回数は、7回。	生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。	
③ 生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月1回、年次ごとの指導を行う。	A	教職員全体で共通理解が図られ、生徒一人一人を大切に生徒指導がなされている。	校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。今後、それらをフィードバックする方法を工夫したい。
	基本的な生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	A	月1回程度行われる定期的な身だしなみ指導、ホームルーム担任による日々の指導や各授業での日常的な指導によって、生徒は高校生らしい身だしなみを維持し、落ち着いた学校生活を送ることができている。身だしなみ指導合格率は、92.2%	挨拶の意義や周りに与える好影響や好印象などを理解させ、校内外で明るく元気な挨拶ができる生徒の育成に引き続き注力する。
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。1か年皆勤生徒150人以上を目指す。 A:150人以上 B:140人以上 C:130人以上 D:120人以上 E:それ以外	B	不登校生徒はおらず、生徒の出席状況は、概ね良好である。各年次で、主任・ホームルーム担任が生徒一人一人に向き合い、きめ細やかな指導を行うことができた。1か年皆勤生徒は、139人。	今年度、生徒の大きな交通事故はなかった。しかし、軽微な自転車乗車中の事故はゼロではなく、引き続き交通安全及び交通ルール・マナーの遵守について、指導を継続していく。
		校内外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。明るい挨拶と返事ができる生徒100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	C	教職員からも働きかけることで、明るく元気な声で挨拶ができる生徒が増えつつある。学校評価アンケートでの評価は、81%。	生徒の中には、学校生活や進路等悩みや不安を抱えている生徒もいる。年次やホームルーム担任、スクールライフアドバイザー・特別支援教育コーディネーターなどと連携を密にして、今後も、生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行っていききたい。
家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	A	各年次回やホームルーム担任は、家庭と綿密に連絡を取りながら生徒一人一人に合わせた指導を行っている。ホームページ等で積極的な情報発信を行っている。		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方針(意見)
④ 進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	A	年間を通して、進路指導やキャリア教育指導が計画的に実施できた。国立大学の合格者も2名おり、生徒の多様な進路希望を実現するための指導を行うことができた。 学校評価アンケートでの評価は、100%。	生徒の進路目標を達成することができ、生徒や保護者から好評価をいただいている。ただし、教員個々人の努力に頼る部分も大きく、組織的な補習や進路指導を今後、学校全体のこととして構築していく必要がある。 生徒の様子は落ち着いており、そのあたりも生徒の進路実現に好影響を与えていると思う。ただし、人前に出ることに多少苦手意識を持つなど、おとなしい生徒もいるため、自分の確に表現できるような指導を今後工夫していきたい。 新型コロナウイルス感染症は、来年度も少なからず影響をもたらすと考えられる。広く情報を収集し、生徒にフィードバックできる体制を構築するとともに、諸事業の代替案を事前に考えるなど、対応に努めたい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の推薦入試等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	A	挨拶や身だしなみなど、基本的な生活習慣は校内をあげて取り組むことができた。面接指導の時間も十分確保でき、それらは成果として表れている。	
	情報提供の促進	進学や就職の情報を本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室やホームルーム教室等に、年次に応じた進路資料等を準備し、活用を図る。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、インターンシップを中止したりガイダンスを縮小したりした。しかし、代替案を考え、実施することで影響を最小限にとどめることができた。	
⑤ 特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	B	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できた。	人権・同和教育のホームルーム活動や保健に関するホームルーム活動など、地域に根差した実践的な活動ができており、今後も継続し、さらに発展させたい。 生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。その分、事前の準備に教員の支援が多く必要な場面もあったが、今後は、準備も含めて生徒主体で活動できるように指導していきたい。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	C	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、学校行事や生徒会活動は大きな影響を受けた。ただし、「できること」を生徒と教員が一緒に考え、実践できたことは、別の意味での充実感の獲得につながったと考える。 学校評価アンケートでの評価は、87%。	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、学校行事、部活動やボランティア活動は、大きな制約を受けた。生徒の安心・安全を確保しつつ、教育活動を実践する方法を引き続き、学校をあげて考え、実践したい。 教員のワークライフバランスの実現や生徒のバランスのとれた部活動等を実現するために、より一層、働き方改革等を考慮した部活動の在り方を研究し、実践していきたい。
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率80%以上を目指す。原則、平日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。 A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:65%以上 E:それ以外	A	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、各種大会や発表会が中止や規模の縮小になるなど、生徒は大きな影響を受けた。しかし、制限された環境下にあっても、生徒たちは精一杯、日頃の活動の成果を表現できたと考えられる。 学校評価アンケートでの評価は、86%。	
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1,000名以上を目標に、勤労体験学習や奉仕活動などを積極的に行う。 A:1,000名以上 B:950名以上 C:900名以上 D:850名以上 E:それ以外	—	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、ボランティア活動は中止を余儀なくされるなど大きな影響を受けた。制限された環境下にあっても、生徒たちは、工夫して活動を行うことができたと考えられる。 ボランティア活動参加延べ人数は、237人。	
⑥ 保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、学校保健委員会が書面開催になるなど、影響を受けた。しかし、感染症について向き合う機会を得たともいえる。	生徒や教職員の心身の健康について、体系的・組織的・継続的な取組や啓発を継続する。 新型コロナウイルス感染症をはじめ、感染症に対する知識や理解を深め、その対策に遺漏ないよう、学校全体をあげて引き続き取り組む。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、衛生委員会等を通じて全教職員の健康への意識の高揚を図る。	C	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、健康診断等の実施に影響が出た。しかし、職員会議等を通じて、感染症対策に係る知識の共有や健康への意識の高揚ができた。	生徒に防火や防災に関する知識と理解を深めさせるとともに、地域と一体となった取組を学校全体で推進していく。 ゴミの分別が不十分な点があった。ゴミ分別の意義や取組の具体的方法について、より指導を行っていく。
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりと、ゴミ分別の取組をはじめ、学校の教育活動全体を通して、生徒への安全や衛生に関する意識の高揚を図る。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、教職員や生徒の安全や衛生に関する理解や意識は大きく高まった。今後も、継続したい。	
⑦ 人権特別・支援と教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大という悪条件下ではあったが、地域教材を積極的に活用した教職員研修等をおして、人権意識の高揚を図ることができた。	今後も、地域教材を中心に教職員研修を行うことで、生徒に自信を持って指導できる体制を構築していく。 生徒の主体的な学習活動を促進することで、人権意識のより一層の高揚を図っていく。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	人権委員会の活動や啓発、人権・同和教育のホームルーム活動等をおして、生徒は人権意識を身に付けることができた。感染症に係る差別防止についても考える機会を得ることができた。	特別支援教育について、校内研修で教職員への共通理解を図るとともに、特別な配慮が必要な生徒について、家庭や生徒本人との連携を密にすることで、全ての生徒が心地よく学校生活を送ることができる環境を整備するとともに、人権意識の高揚を図る。
	進路保障	様々な困難な条件の下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、日程面等、変更を余儀なくされたが、生徒・保護者・学校が連携を密にすることで、生徒は各自の進路目標を達成することができた。	
⑧ 図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	B	教育公務員として、その職責を果たすための研修を実施できた。また、GIGAスクール構想に係るICT機器の活用について、学校を上げて研修を行った。	セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、交通事故や違反など、教職員の不祥事防止に関する研修を重ねて行った結果、本校では、交通事故等はなかった。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、教職員間のコミュニケーション不足が一部見られる。今後、人間関係の在り方について工夫し、心地よい職場環境の構築に努めたい。
	教科指導の充実	全教科で授業の研究等を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	B	校内の研究授業の充実や個々人の各種研修会の参加等によって、授業力の向上に努めた。	来年度は、「生徒一人一台端末」への対応が喫緊の課題となる。現在行っている全体の研修会をもう少し身近な単位に落とし込むことで、気軽に教えあえる環境の構築に努めたい。
	読書意欲の向上	図書館の環境を整え、読書への興味・関心を高める活動を充実させ、図書館の利用者数や貸出冊数の増加を図る。年間図書貸出冊数1,400冊以上を目指す。 A:1,400冊以上 B:1,350冊以上 C:1,300冊以上 D:1,250冊以上 E:それ以外	E	図書館のレイアウトやディスプレイの工夫、新刊図書の購入等によって、図書館の魅力向上に努めた。 年間図書貸出冊数は、852冊。	図書館の活用について、読書の意義や効用について、引き続き生徒に啓発することで、図書館の利用を活性化し、貸出冊数の増加を図りたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
⑨ ICT	機器の整備と活用	視聴覚・情報機器・校内LAN等を整備し、積極的に活用する。また、ICT機器の活用方法を研究するとともに、適宜、校内での研修を行う。「G suite」を導入し、業務の省力化を図る。	B	ICT機器の整備拡充によって、ハード面の環境は改善された。また、校内研修会の実施によって、ICT機器の活用について、基礎基本的な知識技能の習得が進みつつある。	GIGAスクール構想に係る「生徒一人一台端末」に対応するために、全教職員が端末や関係ソフトウェアを使いこなすことができるように、本校で活用している「Google suite for Education」について、全体研修会や個別研修会を行い、ハード面・ソフト面の両面で理解力や指導力の伸長を図る。 学校公式ホームページをより一層充実させることで、学校や生徒の様子を広く内外に発信する。
	ホームページの整備と活用	ホームページの更新回数を週5回以上とすることでタイムリーな学校の情報を発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。 A:5回以上 B:4回 C:3回 D:2回 E:それ以外	A	学校公式ホームページは、広く生徒・保護者・地域の方々に見ていた。5月17以降の平均アクセス数は、6,868回である。 4月から一週間当たりの更新回数は、11.1回。	
⑩ 教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談だより」を学期に1回以上発行し、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	A	教育相談課やスクールライフアドバイザーを中心に、充実した教育相談活動を行うことができた。教育相談室も入室しやすい環境にあり、生徒も気軽に利用している。	変化の激しい現代社会にあって、生徒を取り巻く環境は複雑化している。学校の教育相談機能を充実させることで、今後も、生徒の学校生活や家庭生活を支援していく。必要に応じて、関係諸機関との連携も視野に入れた活動も充実させていく。 生徒だけでなく、教職員の中にも悩みや不安を抱える者もいると考えられる。管理職や教育相談課はもちろん、必要に応じて、外部の相談機関を紹介することで、職場環境の維持改善を行う。
	生徒の状況把握	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーとの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、必要であれば早期に対応する。	B	各年次で、主任やホームルーム担任を中心にきめ細やかな生徒理解ができた。スクールライフアドバイザーや養護教諭との連携により、対応もはっきりできた。	
	教職員間の情報交換	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、連絡会を設けるなどして、教員間の共通理解に努める。	B	守秘義務を前提として、必要に応じて関係教職員間で情報共有ができた。その結果、チームとしての対応ができ、諸問題の解決に寄与した。	
住⑪ 民等 保護者との 連携	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、保護者懇談会や家庭訪問などの実施によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。	A	学校通信の発行や学校公式ホームページへの投稿により、学校や生徒の様子、各種の情報を保護者等に提供できた。また、「マチコミメール」を導入したことで、即時性のある情報提供ができた。	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、保護者や地域の方々には学校や生徒の様子を直接見ていただけなかった分、学校公式ホームページを充実させたところ、閲覧数が飛躍的に増加した。掲載内容をさらに充実させたい。 地域との連携は、感染症対策を十分に考慮して、「どうすればできるか」を工夫しながら、実践していきたい。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行ったりすることで、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、地域との連携は十分にはできなかった。しかし、こうした状況下でも、「できること」を模索しながら、可能な範囲での交流等はできた。	
合⑫ 学 問等 習社の 時総	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、キャリア教育の推進を図る。	B	「産業社会と人間」「総合的な学習(探究)の時間」は、生徒のキャリア教育に大いに役立ったものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によって、活動や発表が制限された面もあった。	新型コロナウイルス感染症への対策も講じながら、生徒の活動を行っていききたい。発表会等の規模や在り方を工夫することで、広く保護者や地域の方々に見ていただけるようにしたい。
⑬ 事務管理	親切な応対	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるように努める。	A	来訪者や電話への対応は、親切かつ丁寧にできた。新型コロナウイルス感染症対策で設置している機器等についても、来訪者の理解をいただけている。	電話対応や来訪者への対応について、親切で丁寧な対応を引き続き実践する。生徒の安全や感染症対策に係る健康管理に配慮しながら、教育環境の維持改善に努める。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	B	教育活動を行っていく上で必要不可欠な部分と、節約できる部分を熟考し、予算等を執行することができた。新型コロナウイルス感染症対策も可能な範囲で十分に行うことができた。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。